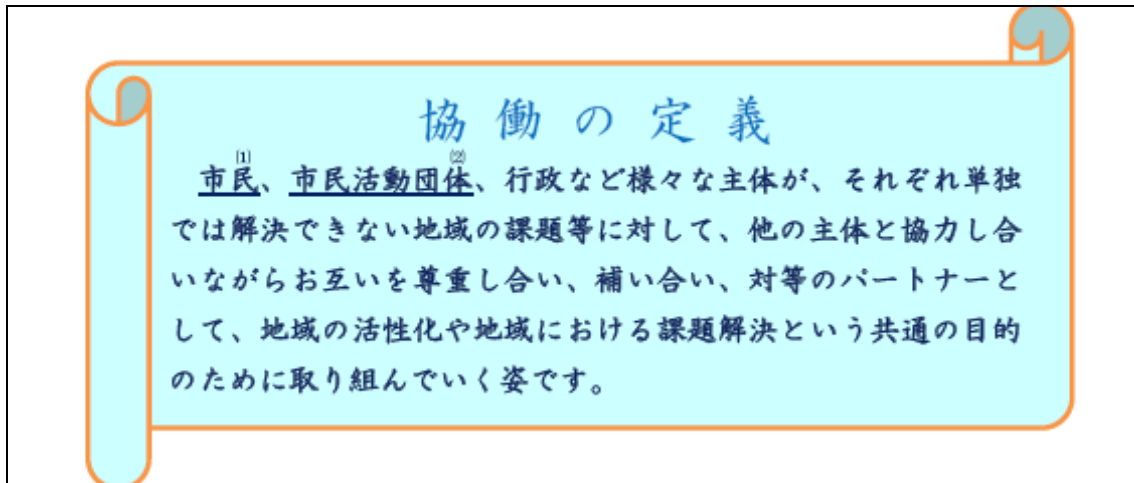


市民参画と協働について

協働とは…

私たちは、家族や地域、そしてふるさとへの愛（思いやり、安心、うるおい）が満ちているまちにしたいと、町内会やNPO、事業者といった民間の様々な主体が、地域清掃や子育て支援などのあらゆる分野において、公共的な仕事を担っているにもかかわらず、行政がやっていることだけを「公共」と呼ぶといった「古い公共観」が残っています。

そのため、このような「古い公共観」の殻を破り、市民をはじめとした民間の様々な主体が自発的に地域の課題に取り組む「新しい公共」と、行政による「制度化された公共」が対等な立場で参画、かつ、連携し、公共の役割を担っていく「新しい公共観」に立ったまちづくりを進める過程が「協働」であると考え、「協働の定義」を次のように定めます。



このことを、市民一人ひとりが、そして行政が理解し、想いを共有することで、「協働のまちづくり」が進められます。

[説明]

市民：個人、各種団体及び事業者等を総称します。

市民活動団体：市民の内、自らの価値観、信念、関心に基づき、市民生活と地域社会への貢献を目的として活動する任意団体や特定非営利活動法人、町内会などの団体を総称します。

市民参加と協働の違い

私たちは、「協働」という言葉と一緒に「市民参加」という言葉を良く聞きますが、協働を進める上では、市民参加と協働の違いを理解することが大切です。それは、市民参加が協働への階段（協働へ発展していく過程）であり土台であるからです。

したがって、市民参加を協働に含めた場合は、「広義の意味の協働」ということになります。

市民参加

法律により保障されている選挙や直接請求、行政の制度としての審議会や各種委員会の委員への就任をはじめ、市政懇談会への参加、行政の依頼による公共施設でのボランティア活動など、行政により保障されたさまざまな参加形態を通してまちづくりにかかわることです。



市民協働

様々な地域課題の中で、行政だけでは解決できない課題や市民だけでは解決できない課題などに対して、市民活動団体等と行政がお互いの不足を補い、また、自立したパートナーとして協力し合い、その課題解決に取り組むことです。

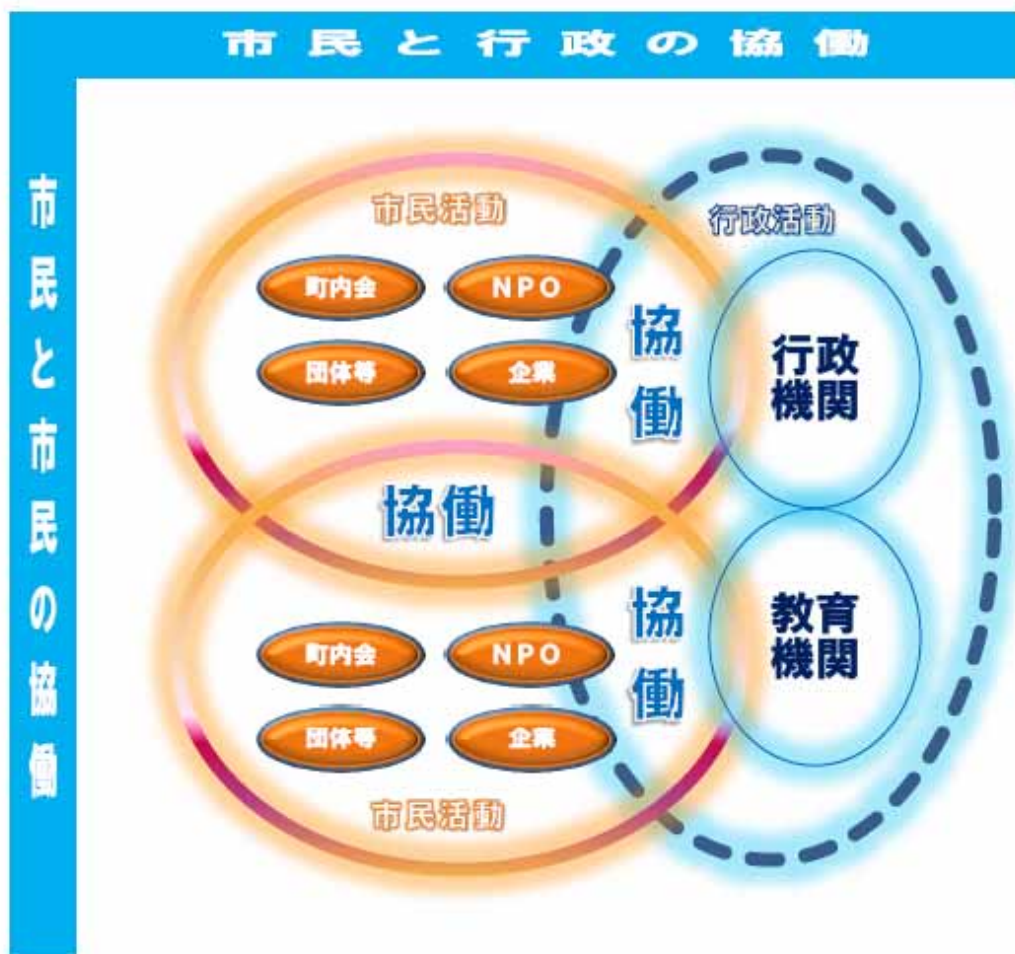


協働のかたち

私たちの「協働」は、大きく分けると市民と市民が支え合い協力し合う「市民同士の協働」と市民と行政が協力し合う「市民と行政の協働」に分けることができます。

また、協働のかたちについては、事業を行う主体と、協力する相手との間では、様々な形態が考えられます。

そのため、事業の内容に応じて、最も効果的な形で協働に取り組むことが大切です。



協働を進めるために…

「協働」を育むためには、私たちが次のような役割を理解し、各々の活動に取り組むことが大切です。

市民の役割

個人としての市民

- ・一人の市民として、地域やその活動に常に関心を持ち、自発的に地域の活動などに参加しましょう。
- ・市民活動団体や行政が行う協働による取組に関する企画・実施・評価の各段階に積極的に参画しましょう。
- ・行政と対等な立場でまちづくりに取り組むという意識を持ちましょう。

市民活動団体としての市民

- ・それぞれの団体の活動が、市民に広く理解されるように、活動の目的や内容を積極的に情報発信しましょう。
- ・それぞれの団体は、自己の責任の下に活動し、団体が蓄積している専門的知識や情報、ノウハウを様々な機会に活用するとともに、積極的に提供しましょう。

事業者や企業としての市民

- ・地域社会を構成する一員であることを認識し、積極的に地域の活動へ参加しましょう。
- ・各事業者が有する人材や情報、施設・設備、資金等の貴重な資源を活用し、活動の場の提供や各種助成など、積極的に地域の活動を支援しましょう。

行政の役割

- ・協働のまちづくりを推進するために必要な情報を積極的に収集・発信します。
- ・職員が協働に対する認識を深め、市民と行政が協働で公共的課題を解決するためのコーディネーターとしての資質を身につけるために、研修等を実施します。
- ・協働のまちづくりの促進に関する総合的な計画を策定し、各種施策を実施することにより、まちづくりに係る市民参画の環境を整備します。
- ・市民活動の拠点となる施設を整備するとともに、活動に必要な備品、器具等を提供します。
- ・市民活動に対する適正な財政的支援を行います。